

土木技師などの専門職を採用する計画はないのか



町長

専門職を採用する計画はない

笠原則孝



質問

役場は、工事の設計をコンサルタントに委託しているが、土木技師などの専門職を採用する計画はないのか。

答弁

町長 現在、専門職を採用する計画はない。

質問

工事内容等の妥当性は、どのようにチェックし判定しているのか。

答弁

町長 完成検査を行い、設計書・図面・現場が一致し出来形及び工事関係書類が適切であることを確認している。

質問

町内の道路管理について、齊田上之手線が国道354号につながったことにより、町道235号線（旧滝川通り線）と交差する一時停止の標識が以前と反対になった。4月から10件ほどの事故が起きているが、町安全協会等はどういう対策を講じているのか。

答弁

町長 町では、車両のスピードを抑制するよう車線を狭める外側線を引き直した。また、警察としては、一時停止の標識を発光型の拡大板に変更し、取り締まりの強化を実施して事故を抑止したいと考えている。

質問

介護保険料の値上げについて、玉村町の介護保険料の値上げ率が県下で2番目に高かったようだが、どうしてこ

答弁

町長 65歳以上の第一号被保険者の保険料は介護サービス量を元に算出するため、市町村ごとに異なる。今回の改正では県内35市町村のうち玉村町を含めた33市町村が値上げとなった。

本町では、今後3年間で65億円のサービス利用が見込まれることから1610円の値上げとなった。町の総人口のうち65歳以上の割合は平成16年度12.3%で、9億3500万円だった介護サービス給付費が、10年後19.4%で17億4400万円となり、10年で1.9倍に増加した。

今後さらなる増大を防ぐためにも、町では「ふれあいの居場所づくり」を筆頭とした生活支援、介護予防に力を入れており、その取り組みは県内でも一番の注目を集めるようになってきている。今後ともご理解とご協力をお願いする。



道の駅 玉村宿が、よりよい運営を行うための具体的な戦略は



渡辺 俊彦



町長

各種イベントの開催や電気自動車用急速充電器の設置を行う

質問

道の駅 玉村宿オープンにあたり運営戦略の具体策は何か。

答弁

町長 道の駅のよりよい運営を維持するためには、地域との連携と柔軟な運営が不可欠と考えている。定期的で開催される各種イベントに地域の皆さんも一緒に参加していただき、県立女子大学とも連携し道の駅の活用方法などについて検討を進める。

また、運営やイベント、新たな商品開発に関する企画、提案などにも多くのアイデアをいただき、地域の魅力を集約した、特色のある「玉村宿づくり」を進めていく。

質問

集客や利便性を高めるため、電気自動車用の充電スタンドの設置を提案するが。

答弁

町長 国庫補助金の交付決定を受けた後、急速充電器1台を道の駅に整備する。

質問

地方創生「玉村町版総合戦略」策定について町の取り組みはどうなっているか。

答弁

町長 「玉村町版総合戦略」を今年度策定する。また、地方創生関連予算を活用した人口減少対策については、平成26年度の繰越事業のみなので、総合戦略に具体的な施策を盛り込む。

質問

公共墓地の建設について、玉村町に移り住んだ方々の最期の行く場所として、宗教や宗派を限定しない町営墓地建設の考えはないか。

答弁

町長 近隣市には公園墓地などとして公営墓地を開設している公共団体もあるが、現在、町として、計画がないため、今後の検討課題としていきたいと考えている。



5月31日にオープンした道の駅 玉村宿の直売所

質問

町のゆるキャラ「たまたん」を活用して優良な販売物品に「たまたん」ブランドの称号をつけるなど「たまたん」の活用を推進してはどうか。

答弁

町長 「たまたん」ブランドの称号については、今後、研究・検討していきたい。